

仙台司教区

教区事務所だより



(第 14 号)
昭和 53 年 1 月 15 日

福音宣教の決意新たに!!

新年のお喜びを申し上げ

教区の皆さまの上に

神の恵みと祝福を祈ります

クリスマスと新年に際し、多くの方々からご祝詞やご芳志を頂き、ありがとうございます。ここに厚く御礼申し上げます。

神の民わたしたちの一年の歩みは既に、主の公現、イエズスの洗礼を祝って救い主イエズスと共に、福音宣教にまい進する季節に入っています。元旦の神の母聖マリアの祝日に当たって、「暴力を排し、平和を求めよう」と力強く言われた教皇パウロ六世の呼びかけに応える活動が、

各地で開始されたことでしょう。福音宣教は、平和の実現の努力と表裏一体のもの、車の両輪のようなものです。

昨年六月初め、「神の国のしるしとしての小教区の自己認識」と題する私の提言を教区の皆さまにお送りしました。これを受けて真剣な話し合いがなされた小教区や修道院もありましたが、教区全体としてのまとめを見るまでには至りませんでした。また所によっては、もう一年かけて検討を深めたいという意欲を示しています。今後に期待をつないでいきたいと思っています。

同時に、教皇パウロ六世の使徒的勧告「福音宣教」(中央協議会発行)を教区の皆さまが熟読玩味されるようお願いいたします。それは、「福音

宣教についての反省」でもあり、「人々が信じ救われるため、神の命によって、教会がしなければならぬ義務(の再確認)」でもあります。教会の使命、つまり洗礼・堅信の秘跡を受けたキリスト者一人ひとりには与えられた使命は、昔も今も変わりがなく、自己の安心立命のみに止まらず、すべての人の救いのための福音宣教に献身することです。

岩手県においては、ペトレム宣教会と県下全小教区教会信徒が協力して、盛岡市の四ツ家教会をカトリック・センターに衣替えして福音宣教への新しい努力を試みようとしています。新しい施設の建築もさることながら、それを具体的なしるしとする宣教師ならびに信徒の、宣教への熱意の結集こそが尊いものです。年頭に当たり、福音宣教の決意を新たにし、父からつかわされたイエズスの使命に参与するわたしたちの使命を果たす毎日となるよう今年も励みましょ。

新玉の年を迎えて ひたすらに
天の父称う み子の友われら

司教 佐藤 千敬

大成功の慈善音楽会

藤の園改築資金に32万円

養護施設「藤の園」改築資金募金慈善音楽会「リードとオラトリオの調べ」が2月21日午後6時30分からカトリック教会聖堂で開かれ、200人余の市民が冬の夜を宗教音楽で楽しんだ。

慈善音楽会という形式も一関市でめずらしいなら教会の聖堂をつかったの音楽会というのも画期的なこの音楽会。久保田丈夫氏、斎藤哲子さんら多くの人たちの善意によって開催され、約32万円が「藤の園」改築資金募金として贈られるはこびとあった。

養護施設「藤の園」は36年にカトリック教会が管林署の療養所あとを買いとって社会福祉法人「藤の園」に寄附、現在にいたっている。だいぶ以前から建て物の老朽化がひどく改築の話がでているが、そのためにかかる費用が約2億8千万円、2億円は国や県から補助されるとしても8千万円の手持ちがなければならな

い。2億円の補助をもらうためには藤の園が寄附活動はできないとあって、カトリック教会がかわってその改築資金募金となった。

慈善音楽会の出演には趣旨に賛同した斎藤哲子さんがかつてでた。ところが斎藤さんが風邪をひいてプログラム全部を一人でこなすことができにくい状態となったため21日の当日、横地裕子さんと大畑孝夫氏が突然賛助出演することになるなどの変更もあった。

音楽会は、ちょうど200人余で満員になる会場、それもクリスマス真近くモミの木が飾られている聖堂とあってふん囲気は抜群。こがらしの吹くなか駆けつけた市民もあらたまった気持で古典イタリア歌曲やオラトリオ、ミサ曲、聖歌の数々に耳を傾けた。ふだん聞くことの少ない曲の数々だったにもかかわらず大好評で年に一度はこうした教会音楽を聞く会を開いて欲しいという要望が多くあったほどだった。

(参 崖目 52.12.23)



司教様の日程

(1/月14日現在)

- 2月2日 カリタス・ジャパンの集り
- 5日 長崎・松永補佐司教祝聖式
- 17日 スペルマン病院理事会
- 19日 堅信式(十和田教会・三沢キャンプ)
- 23日 3月10日 海外出張

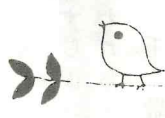
聴いてみませんか

バチカン放送!!

若いリスナーの間で静かなブームを巻き起こしているバチカン放送。一度聴いてみませんか。

放送時間 朝6時50分〜7時5分
週3回(火・木・土)

周波数 7235KHZ
4147M
9615KHZ
11705KHZ
2563M



人事往来



◎ 潔き御心の聖母修道女会総長（イダ・クアミーニ）、副総長（エディット・レジャー）来仙。12月20日（28日）。

◎ 篠原正師（秋田教会・神言会士）
深水正勝師（東京教区）、オリビエ
シエガレ師（パリ外国宣教会）
カトリック学生の集いのため12月27
日（29日）来仙。

◎ 木原康宏氏（一級公認会計士）幼
稚園の学校会計研修会のため1月9
日（13日）来仙。

新刊紹介

共著

ルドルフ・プロット
ゲルハルト・ローフィンク

「今こそ聖書がわかった」

定価250円

聖書がなぜむずかしく感じられるのか？
聖書を正しく、かつ楽しく読むために、その
表現様式や文学類型について、この本は学問
的にしかも非常にわかりやすく説明したもの。

女子聖パウロ会刊

青年・姉妹の集い紹介

「青年会」（四ツ家教会）

現在の青年会は昭和48年後半に発
足した「麦の会」が母体である。

当時は岩手宣教百年の記念式典等が
行われ、県内各地から信徒が集り、
今後の教会のあり方、信徒使徒職等
について話し合われていた頃である。

その後、当教会の若い人等の集り
の話題に、何とか教会の内に若い人
の集り（いわゆる青年会）を持つと
いうことがでて、数人が当時の指
導司祭であった吉田昌民師（仙台司
教区事務所）と話し合いをして、会
の発足の準備をし、昭和48年11月に
名称を「麦の会」として設立された。

その当時は教会内の組織も現在の
ようには確立されておらず、教会内
の行事一般は主に麦の会が主催して
行っていた。麦の会は女部会・教学
部、典礼部、雑学部、厚生福祉部か
ら成り立っていた。

しかし、その後諸般の事情で部会
制をやめ、現在は定期的に毎月第
ノ火曜日と第3金曜日を例会日とし、

ある一つのテーマについて討論した
り、「聖書と典礼」の福音箇所を、
現実の日常生活に対比して話し合い
を行っている。

その他、例年の行事としては、練
成会（講師を依頼しての黙想会）、
ハイキング、登山、スポーツ大会、
クリスマス会の集い、ビール・パーテ
ィーの開催等がある。

又、会員のうちの数名が教会学校
ボーイ・スカウト、ガール・スカウ
トの指導に当たっている。

会員は約40名で、男性は全体の3
分の1位。ほとんどが勤めているた
め例会に参加する人数は10人前後で
ある。しかし、2ヶ月に1回発行し
ている青年会報は会員全員に毎回郵
送し、会員の確保をはかっている。

最後に、本年は四ツ家教会及び岩
手カトリック・センターが5月初旬
には改築されることでもあり、これ
を機会に、これまでの教会内の活動
にとどまらず、広く教会外において
の活動にも目を向けて行くよう、も
っと会を充実していかなければなら
ないと決意を新たにしている。

※※※※※※※※※※※※※※※※

東北地区

カトリック学生の集い!

東北地区カトリック学生の集いが去る12月27日、29日、仙台ドミニコ学院幼稚園(北仙台)を会場に開催された。

この集いは在仙大学カトリック学生有志(代表 藤倉宏文君)主催、カトリック仙台司教区後援によるもので、仙台市内各教会の若者ならびに東京、秋田、郡山、福島から駆けつけた若者、併せて30名余が集い、2泊3日の寝食を共にした。

集いの形式は「テーマー」三つの時(過去、現在、未来を考える)ーに基づき、担当講師による講話があり、そのつど分科会が開かれ、互いに意見を交換した。

ちなみに、講師は次の通りであった。

第一回 「聖書の世界」 佐伯晴郎師(宮城学院女子大学教授)

第二回 「現代における価値観」 篠原正師(秋田教会・神言会士)

第三回 「未来への展望」 村首

ステファノ師(将監布教所、白百合短期大学講師)

集いの発端は、若者が共に集って

キリスト教を考えてみたい、他教会の若者との交流を深めたいということであった。

学生によるこの種の集いは、カトリック学生連盟の解散(昭和44年)以来、仙台教区でははじめてのことであった。

マリッジ・エンカウンター開催

ーあなたの生活をかえる 44時間ー

来る2月10日、12日、盛岡・共済会館において、マリッジ・エンカウンター(週末の集い)が開かれます。

このエンカウンターはカトリック教会の中で始まったもので、その指導は、深いキリスト教的精神にもとづいて行なわれますが、現在順調な結婚生活を送っておられる二人が、更にその関係を深め、より充実したものにすることを目的としたものです。

主催、四ツ家教会 指導、小林博師(茨城・下館教会)と3カップル。

講習会

福音宣教について

来る2月13日、14日、花巻・松倉温泉において福音宣教についての講習会が開かれる。対称は主に、岩手県下のカテキスタであるが、信徒、司祭も加わり、ツウゲル師(ベトレム宣教会管区長)の指導のもとで行われる。

◎編集後記

昨年は、第11号と第12号の間に3ヶ月もの空白期間を生じさせ、皆さまには余計な心配をお掛けしてしまいました。

今年は、そんなことがあってはならぬ、と独り心に念じております。どうぞ、今年もよろしく!!

.....

仙台司教区事務所だより第14号
昭和五十三年一月十五日発行
発行所仙台司教区事務所

〒950 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222-23-7371

